

説得という名の強要

「老いては子に従え」という言葉があります。

歳をとったら子供の意見に従えという事ですよ。

これ、何かおかしいと感じませんか？

長い人生を歩んできて経験豊富な高齢者の意思よりも子の意見に従いなさいと「自分を殺す」事が求められるなんて個人の意思を尊重するという民主社会の理念に真っ向対立する言葉です。

しかし、それは「強要」が「説得」という言葉に言い換えられて、高齢者の周囲には日常のように行われています。

昨日わたしたちの事務所に届いた訃報からよみがえった記憶があります。

飯田さん(仮名)はご主人亡き後独り暮らしを続けていらっしゃいました。

年齢を重ねるなか、身体機能は低下して要介護5に。

その方の独り暮らしをわたしたちの事務所は支えてきました。

ケアマネジャーはその方のお宅を訪問する度に「飯田さん、これからもこの家で暮らす？」「それとも施設に入る？」と尋ねました。彼女はそのたびに日中過ごす居間のテーブルを「ぼんぼん」と叩きながら言います。

「この家において時々ハビリに行くのが良い」と。

毎月毎月返ってくる答は同じでした。ですからわたしたちも全力で彼女の暮らしを支えてきました。

ところがある日ご家族から「施設にいます」とわたしたちに伝えられました。

驚いたケアマネジャーは「飯田さんは納得なさっているのですか？」と問いました。

ご家族は「本人は了解しています」と。

そしてあっという間に施設入所。

そしてそれから僅か半年でお亡くなりになっていたのです。

きっとご家族は「説得」をされたのでしょう。身体が不自由になったお年寄りはある種の「負い目」を感じ、子供に迷惑は掛けられないと了解する事は日常にわたしたちの回りにあります。でもそれはご本人の本当の意思でしょうか？

飯田さんにストレスの少ない在宅生活を提供出来ていたならば、まだまだお元気な姿が見られたのではとあのお別れを思い出しました。ご家族にはご家族の思いがあったことは理解しています。でも自分が老いたとき、そうされたいですか？



本の紹介

認知症の人は何を考えているのか？ 大切な人の「ほんとうの気持ち」がわかる本（介護ライブラリー）単行本（ソフトカバー） - 2021/11/18

発売日：2021/11/18

出版社：講談社

レーベル：介護ライブラリー

サイズ：19cm / 222p

ISBN：978-4-06-526038-8



イラスト、漫画も豊富に使った読みやすい本です。

認知症の介護の現場では「出来ない事」が増えていく事を諦めの気持ちで眺めてしまうこともよくあることです。

この本はそういう「先入観」に待ったをかける知識が多数紹介されています。

介護に携わるもののちょっとした観察力が認知症の方の持っている力を引き出せるのです。

具体的な事例でわたしたちに介護のヒントを与えてくれる本です。

